

種名と配列に関わる解説等（環形動物門（ホシムシ・ユムシ類含む））

○目録の解説

岡山県野生生物目録の前版（2009）では、伝統的な分類体系に基づいて、星口動物、ユムシ動物、そして環形動物（多毛綱、貧毛綱、ヒル綱）がそれぞれ独立した動物門として扱われていた。しかし、今回の改訂では、これらの分類群をすべて「環形動物門」の下に統一した。また、科以上の上位分類群を独立した見出し行として記入し、それら上位分類群すべてに対し、学名とその命名者・年を記入した。その理由は以下の通りである：

1. 最近の分子・ゲノム系統学的成果によれば、環形動物門多毛綱は明らかな多系統群であり、これまで別群とされてきたユムシ動物門、星口動物門、貧毛綱、ヒル綱を内包することが判明している（三浦, 2012; 佐藤・狩野, 2016; 田中, 2018）。

2. したがって、これまで慣用されてきた「門」，「綱」，「目」などの「科」以上の上位分類群の表記が問題となる。分子・ゲノム系統学的知見に基づく、環形動物門内の包括的な分類体系の再編は、現在その途上にあり、目以上の上位分類群に対する階級の提唱には至っていない。

3. 近年刊行された国内の書籍（例えば巖佐ほか, 2013; 国立天文台, 2015）に収録されている生物分類表では、上記の系統学的知見が部分的に反映されており、例えばユムシ動物や星口動物は環形動物門内の「綱」に位置づけられ、また貧毛綱とヒル綱はまとめられて環帯綱とされている。一方で、多毛綱が解体され、所属していた分類群は頭節綱、足刺綱、溝副触手綱などに振り分けられたが、この分類体系は旧来の形態形質に基づく分岐分類学の成果（Rouse & Fauchald, 1997）に依拠しているため、分子・ゲノム系統解析によって得られている知見とは大きく乖離している。

4. よって本目録では、最新の系統学的知見（Erséus & Källersjö, 2004; James & Davidson, 2012; Kawauchi *et al.*, 2012; Andrade *et al.*, 2015; Struck *et al.*, 2015; Goto, 2016; Helm *et al.*, 2018; Tessler *et al.*, 2018）との整合性を図るため、科以上の上位分類群の表記には「綱」や「目」を使用せず、代わりに主要な単系統群（Clade）を「～類」もしくは「未命名の単系統群」などとするこ

本目録の上位分類群とその配列は、おもに Jamieson (2006), Brusca *et al.* (2016), そして Struck (2019) の総説を参照した。学名とその命名者・年は、Nakano & Itoh (2011), Nakano (2017), そしてインターネット上のデータベースである Minamiya (2014–2018) および WoRMS Editorial Board (2019) に概ね準拠した。

本目録での環形動物門の掲載種数は合計 235 種となり、前版 (2009) の 31 種から大幅に増加した。新規追加種は基本的に下記文献によるが、検討会委員および協力員の確認記録のみに基づく種については、備考欄に産地（観察者、観察日等）を記載した。

環形動物門の目録作成は協力員の田中正敦（鹿児島大学大学院理工学研究科）と佐藤正典（鹿児島大学大学院理工学研究科）が担当し、本解説は田中正敦が作成した。目録作成にあたっては以下の検討会委員および協力員各位の協力を得た（五十音順）：佐々木彰央（アンフィ合同会社），多留聖典（東邦大学東京湾生態系研究センター），福田 宏，柳 研介（千葉県立中央博物館分館海の博物館），山田 勝，和田太一（NPO 法人南港ウェットランドグループ）。

○主な参考文献

- Andrade, S.C.S., Novo, M., Kawauchi, G.Y., Worsaae, K., Pleijel, F., Giribet, G. & Rouse, G.W., 2015. Articulating “archiannelids”: phylogenomics and annelid relationships, with emphasis on meiofaunal taxa. *Molecular Biology and Evolution*, **32**: 2860–2875.
- 東 幹夫, 1967. 三谷池におけるプランクトンとベントスの現存量. 昭和 41 年度岡山県水産試験場事業報告書, (1966): 174–181.
- Brusca, R.C., Moore, W. & Shuster, S.M., 2016. *Invertebrates, Third Edition*. Sinauer, Massachusetts.
- Catalan, M.A.B. & Yamamoto, M., 1994. Annual reproductive cycle of two Japanese species of sipunculans: *Siphonosoma cumense* (Sipunculidae) and *Phascolosoma scolops* (Phascolosomatidae). *Pacific Science*, **48**: 145–157.
- 江田伸司・坂本明弘, 1988. 久須美鼻 (岡山県倉敷市) の海岸動物. 倉敷市立自然史博物館研究報告, (3): 41–47.
- Erséus, C. & Källersjö, M., 2004. 18S rDNA phylogeny of Clitellata (Annelida). *Zoologica Scripta*, **33**: 187–196.
- 藤井義弘・松村眞作・篠原基之, 1997. 片上湾における底生生物の分布とエビ類の生息状況. 岡山県水産試験場報告, (12): 51–58.
- 福田富男・唐川純一・安家重材・寺嶋 朴, 1979. 保護水面内に設置した網魚礁および投石等の効果—V (1978). 昭和 53 年度岡山県水産試験場事業報告書, (1978): 54–96.
- 福田富男・増成伸文・濱崎正明, 1997. 岡山県東部水域におけるマアナゴの食性. 岡山県水産試験場報告, (12): 1–8.
- 福田富男・松村眞作・香田康年, 2018. 改良型菊池ポイント法の開発. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系), (28): 9–16.
- 福田富男・篠原基之・寺嶋 朴, 1973. 網魚礁の集魚効果およびそれに集まる動物相. 昭和 47 年度岡山県水産試験場事業報告書, (1972): 83–108.
- Goto, R., 2016. A comprehensive molecular phylogeny of spoon worms (Echiura, Annelida): implications for morphological evolution, the origin of dwarf males, and habitat shifts. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **99**: 247–260.
- Goto, S. & Hatai, S., 1899. New or imperfectly known species of earthworms. No. 2. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, **3**: 13–24.
- Hatai, S., 1930. Note on *Pheretima agrestis* (Goto and Hatai), together with the description of four new species of the genus *Pheretima*. *Science Reports of the Tohoku Imperial University, 4th Series (Biology)*, **5**: 651–667.
- Helm, C., Beckers, P., Bartolomaeus, T., Drukewitz, S.H., Kourtesis, L., Weigert, A., Purschke, G., Worsaae, K., Struck, T.H. & Bleidorn, C., 2018. Convergent evolution of the ladder-like ventral nerve cord in Annelida. *Frontiers in Zoology*, **15**: 36.
- 廣田厚子, 2015. 春の観察会 河口干潟に生息する甲殻類・貝類等干潟生物の観察. 倉敷の自然, (99): 12–13.
- 飯島明子 (編), 2007. 第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- Ikemoto, N., 1963. Further studies in electron microscopic structure of the oblique-striated muscle of the earthworm, *Eisenia foetida*. *Biological Journal of Okayama University*, **9**: 81–126.

- Imajima, M., 1966a. The Syllidae (polychaetous annelids) from Japan. I. Exogoninae. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **13**: 385–404.
- Imajima, M., 1966b. The Syllidae (polychaetous annelids) from Japan (II). Autolytinae. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **14**: 27–83.
- Imajima, M., 1966c. The Syllidae (polychaetous annelids) from Japan (III). Eusyllinae. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **14**: 85–116.
- Imajima, M., 1966d. The Syllidae (polychaetous annelids) from Japan (IV). Syllinae. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **14**: 219–252.
- Imajima, M., 1966e. The Syllidae (polychaetous annelids) from Japan (V). Syllinae (2). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **14**: 253–294.
- Imajima, M., 1972. Review of the annelid worms of the family Nereidae of Japan, with descriptions of five new species or subspecies. *Bulletin of the National Science Museum*, **15**: 37–153.
- 今島 実, 1996. 環形動物多毛類. 生物研究社, 東京.
- 今島 実, 2001. 環形動物多毛類 II. 生物研究社, 東京.
- 今島 実, 2007. 環形動物多毛類 III. 生物研究社, 東京.
- 今島 実, 2015. 環形動物多毛類 IV. 生物研究社, 東京.
- Imajima, M. & Takeda, Y., 1987. Nephtyidae (Polychaeta) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Series A*, **13**: 41–77.
- 稲葉明彦, 1988. 増補改訂 瀬戸内海の生物相 II. 広島大学理学部附属向島臨海実験所, 広島.
- 石田 惣, 2017. 高梁川河口 (倉敷市). In 大阪自然史博物館 (編), 第 48 回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」解説書『瀬戸内海の自然を楽しむ』, 85–86. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 石田 惣・和田 岳, 2017. 番田 (玉野市). In 大阪自然史博物館 (編), 第 48 回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」解説書『瀬戸内海の自然を楽しむ』, 86. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 石田 惣・中条武司・横川昌史・和田 岳, 2017. 高洲 (倉敷市). In 大阪自然史博物館 (編), 第 48 回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」解説書『瀬戸内海の自然を楽しむ』, 86. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 石川久治, 1938. 実験・応用 釣餌虫利用の研究. 釣餌料研究会, 福岡.
- 伊藤猛夫・菊池泰二・桑田一男・二階堂要, 1976. 児島湖 (人工淡水湖) における底生動物の分布と現存量. *生理生態*, **17**: 23–31.
- Ito, T., Kuwada, K. & Nikaidō, M., 1970. Benthic macroinvertebrates of Lake Kojima, with particular reference to polluttional effects of industrial and municipal wastes. *Memoirs of the Ehime University, Natural Science, Series B (Biology)*, **6**: 145–158.
- 伊藤 靖・中野喜央・藤澤真也, 2008a. 人工魚礁およびその周辺における小型動物の分布—漁場施設の魚類増殖効果に関する研究—I—. *水産工学*, **45**: 101–100.
- 伊藤 靖・中野喜央・藤澤真也, 2008b. 人工魚礁におけるマコガレイの分布と食性—漁場施設の魚類増殖効果に関する研究—II—. *水産工学*, **45**: 129–138.
- 伊藤 靖・吉田 司・張間千鶴, 2015. 瀬戸内海の千軒湾地先における炭素・窒素安定同位体比からみたマコガレイ稚魚の食物と食物源の推定. *日本水産学会誌*, **81**: 681–687.
- 巖佐 庸・倉谷 滋・斎藤成也・塚谷裕一 (編), 2013. 岩波生物学辞典 第5版. 岩波書店, 東京.
- 飯塚 啓, 1905. 児島湾に群泳をなす環節虫類. *動物学雑誌*, **17**: 181
- 飯塚 啓, 1907. イトメの産地. *動物学雑誌*, **19**: 176–177.

- Izuka, A., 1908. On the breeding habit and development of *Nereis japonica* n. sp. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, **6**: 295–305.
- 飯塚 啓, 1908. 児島湾の「海ビール」の生殖群泳及其発生. *動物学雑誌*, **20**: 390.
- Izuka, A., 1912. The errantiate Polychaeta of Japan. *Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo*, **30**: 1–262, pls 1–24.
- 泉川晃一, 2009. スッポンに寄生するヒル. *水試だより*, (353): 2.
- James, S.W. & Davidson, S.K., 2012. Molecular phylogeny of earthworms (Annelida: Crassicitellata) based on 28S, 18S and 16S gene sequences. *Invertebrate Systematics*, **26**: 213–229.
- Jamieson, B.G.M., 2006. Non-leech Clitellata. In Rouse, G. & Pleijel, F. (eds), *Reproductive Biology and Phylogeny of Annelida*, 235–392. Science Publishers, New Hampshire.
- 株式会社パスコ (編), 1988a. 第3回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書 (全国版). 環境庁自然保護局, 東京.
- 株式会社パスコ (編), 1988b. 第3回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書 (全国版) 別添資料 季節別・地区単位データ集計表 磁気テープ入力形式. 環境庁自然保護局, 東京.
- 環境庁自然保護局 (編), 1998. 第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査 データ編. 環境庁自然保護局, 東京.
- 片山勝介・三宅与志雄・池田善平・篠原基之・藤沢邦康, 1979. 岡山県西部における養殖モガイの異常へい死に関する研究—I. 昭和53年度岡山県水産試験場事業報告書, (1978): 139–143.
- 勝谷邦夫・村田 守, 1977. ゴカイ (*Neanthes japonica*) の養殖に関する研究. 昭和51年度岡山県水産試験場事業報告書, (1976): 145–151.
- 勝谷邦夫・山本章造・村田 守, 1976. 高島周辺でのゴカイ養殖について. 昭和50年度岡山県水産試験場事業報告書, (1975): 315–319.
- 勝谷邦夫・山本章造・和田 功, 1972. 塩田内に発生するゴカイ *Neanthes japonica* (Izuka) に関する研究. 昭和46年度岡山県水産試験場事業報告書, (1971): 34–46.
- Kawaguti, S. & Ikemoto, N., 1957. Electron microscopy on the smooth muscle from the body wall of the earthworms, *Pheretima communissima* and *Eisenia foetida*. *Biological Journal of Okayama University*, **3**: 223–238.
- Kawaguti, S. & Ikemoto, N., 1958. Electron microscopy on the smooth muscle of the leech, *Hirudo nipponia*. *Biological Journal of Okayama University*, **4**: 79–91.
- Kawauchi, G.Y., Sharma, R.P. & Giribet, G., 2012. Sipunculan phylogeny based on six genes, with a new classification and the descriptions of two new families. *Zoologica Scripta*, **41**: 186–210.
- 菊池泰二, 1969. 児島湖の底生動物群集. *動物学雑誌*, **78**: 80.
- Kikuchi, T. & Itô, T., 1975. Biotic production and eutrophication in Lake Kojima. Densities and standing crops of the major invertebrates. In Mori, S. & Yamamoto, G. (eds), *JIBP Synthesis, Vol. 10. Productivity of Communities in Japanese Inland Waters*, 199–246. University of Tokyo Press, Tokyo.
- Kitamori, R., 1965. The Pectinaridae [sic] (polychaetous annelids) from the Seto-Inland-Sea and the Omura Bay. *Bulletin of Tokai Regional Fisheries Research Laboratory*, (44): 45–48.
- 小橋啓介・藤沢邦康・尾田 正・林 浩志・小宮山秀樹, 2003. 岡山県東部干潟の6ヶ所の底質とベントス. *岡山県水産試験場報告*, (18): 106–113.
- 小林新二郎, 1941. 四国, 中国, 近畿及中部諸地方の陸棲貧毛類に就て. *動物学雑誌*, **53**: 258–266.
- 国立天文台 (編), 2015. 理科年表 平成28年 (第89冊). 丸善出版, 東京.
- 近藤正義, 1964. 日本水道生物学誌. *日本水処理生物学会誌*, **1**: 3–12.

- 松永久宏・高木正人・小菊忠男, 2003. 鋼鉄スラグ水和固化体の基本特性と海洋環境下における生物付着性. *鉄と鋼*, **89**: 74–80.
- Minamiya, Y. [南谷幸雄], 2014–2018. 日本産ミミズ大図鑑プロジェクト. <https://japanese-mimizu.jimdo.com/> (2019年2月23日閲覧)
- 三浦知之, 2012. 環形動物. In 日本進化学会 (編), *進化学辞典*, 245–246. 共立出版, 東京.
- 三宅与志雄・藤沢邦康, 1983. 児島湾締切堤防周辺の環境について. *昭和57年度岡山県水産試験場事業報告書 (受託関係)*, (1982): 26–46.
- 三宅与志雄・浮田和夫, 1968. 水島海域の水質・底質及び底生動物について. *昭和42年度岡山県水産試験場事業報告書*, (1967): 127–151.
- 三宅与志雄・藤沢邦康・浮田和夫, 1976. 岡山県沿岸の底質について. *昭和50年度岡山県水産試験場事業報告書*, (1975): 36–67.
- 森 千恵・江木寿男, 2011. 日本の重要湿地 500 永江川河口湿地のベントスと魚類. *倉敷市立自然史博物館研究報告*, (26): 1–6.
- 村上和仁・吉岡敏行・鷹野 洋・荻野泰夫, 1998. 児島湖における底生動物現存量調査. *岡山県環境保健センター年報*, (22): 26–28.
- 長澤和也・泉川晃一・池竹弘旭, 2013. 100年ぶりにボラに寄生が確認されたヒダビル. *生物圏科学*, **52**: 65–70.
- Nagasawa, K., Izumikawa, K., Yamanoi, H. & Umino, T., 2009. New hosts, including marine fishes cultured in Japan, of *Limnotrachelobdella okae* (Hirudinida: Piscicolidae). *Comparative Parasitology*, **76**: 127–129.
- Nakano, T., 2017. Diversity of leeches from Japan: recent progress in microphagous and blood-feeding taxa. In Motokawa, M. & Kajihara, H. (eds), *Species Diversity of Animals in Japan*, 319–340. Springer Japan, Tokyo.
- Nakano, T. & Itoh, T., 2011. A list of the leech (Clitellata: Hirudinida) collection deposited in the Department of Zoology, the University Museum, The University of Tokyo. In Ueshima, R. (ed), *Catalogue of Invertebrate Collection Deposited in the Department of Zoology, the University Museum, The University of Tokyo* (3). Phylum Annelida (Class Polychaeta, Oligochaeta, and Hirudinida). *The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports*, (90): 85–94.
- 西川輝昭, 2012. サナダムシ. In 日本ベントス学会 (編), *干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック*, 238. 東海大学出版会, 秦野.
- Ohtaka, A. & Nishino, M., 2006. Studies on the aquatic oligochaete fauna in Lake Biwa, central Japan. IV. Faunal characteristics in the attached lakes (naiko). *Limnology*, **7**: 129–142.
- Oka, A., 1910. Synopsis der japanischen Hirudineen, mit Diagnosen der neuen Species. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, **7**: 165–173.
- 岡山大学理学部附属玉野臨海実験所, 1978. 備讃瀬戸海域の生物相と主要実験動物の研究. In 国立大学臨海臨湖実験所長会議 (編), *臨海・臨湖実験所周辺の生物相および主要実験生物に関する研究 (昭和50–52年度文部省科学研究費補助金総合研究A研究成果報告)*, 158–170. 国立大学臨海臨湖実験所長会議, 福岡.
- 岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所, 刊行年不詳. *海産動物実習手引 第4版*. 岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所, 牛窓.
- 岡山県, 1989. 牛窓, 番田, 高島地区保護水面における環境及び生物調査 (1988). *岡山県水産試験場報告*, (4): 100–101.

- Okuda, S., 1933. Some polychaete annelids used as bait in the Inland Sea. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, **14**: 243–253.
- Rouse, G.W. & Fauchald, K., 1997. Cladistics and polychaetes. *Zoologica Scripta*, **26**: 139–204.
- 坂本明弘, 2018. 第 530 回自然観察会「干潟の生物の観察会」. *しぜんくらしき*, (104): 15.
- 佐々木彰央, 2019. 両生類に寄生する *Torix* 属 3 種の記録. *両生類誌*, (32): 7–9.
- 佐藤二郎・元谷 剛・林 浩志, 2014. 岡山県東部海域におけるイヌノシタ及びアカシタビラメの食性. *岡山県農林水産総合センター水産研究所研究報告*, (29): 61–68.
- Sato, M., 2013. Resurrection of the genus *Nectoneanthes* Imajima, 1972 (Nereididae: Polychaeta), with redescription of *Nectoneanthes oxypoda* (Marenzeller, 1879) and description of a new species, comparing them to *Neanthes succinea* (Leuckart, 1847). *Journal of Natural History*, **47**: 1–50.
- 佐藤正典・狩野泰則, 2016. 総論：環形動物の分類学研究. *月刊海洋／号外*, (57): 5–11.
- 千田哲資, 1965. イカナゴの夜間浮上について. *日本水産学会誌*, **31**: 506–510.
- 白井邦彦・山根謹爾, 1944. 強内湾性の動物群集—児島湾に就て—. *日本海洋学会誌*, **4**: 7–14.
- Struck, T.H., 2019. Phylogeny. In Purschke, G., Böggemann, M. & Westheide, W. (eds), *Handbook of Zoology. Annelida. Volume 1: Annelida Basal Groups and Pleistoannelida, Sedentaria I*, 37–68. De Gruyter, Berlin.
- Struck, T.H., Golombek, A., Weigert, A., Franke, F.A., Westheide, W., Purschke, G., Bleidorn, C. & Halanaych, K.M., 2015. The evolution of annelids reveals two adaptive routes to the interstitial realm. *Current Biology*, **25**: 1993–1999.
- 田中正敦, 2018. 環形動物 (有鬚動物・ユムシ・星口動物を含む) — 誤解されていた系統関係. In 日本動物学会 (編), *動物学の百科事典*, 70–71. 丸善出版, 東京.
- Tanaka, M., Kon, T. & Nishikawa, T., 2014. Unraveling a 70-year-old taxonomic puzzle: redefining the genus *Ikedosoma* (Annelida: Echiura) on the basis of morphological and molecular analyses. *Zoological Science*, **31**: 849–861.
- 寺島 朴, 1973. 下津井海域のアマモ場とドロ場におけるえび漕網の漁獲物組成. *昭和 47 年度岡山県水産試験場事業報告書*, (1972): 64–82.
- 寺嶋 朴・松村眞作, 1983. 児島湾における干潟の底生動物. *昭和 57 年度岡山県水産試験場事業報告書 (受託関係)*, (1982): 104–119.
- Tessler, M., Carle, D.de, Voiklis, M.L., Gresham, O.A., Neumann, J.S., Cios, S. & Siddall, M.E., 2018. Worms that suck: phylogenetic analysis of Hirudinea solidifies the position of Acanthobdellida and necessitates the dissolution of Rhynchobdellida. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, **127**: 129–134.
- Tomioka, S., Kakui, K. & Kajihara, H., 2018. Molecular phylogeny of the family Capitellidae. *Zoological Science*, **35**: 436–445.
- Torii, T., 2006. New record of *Propappus volki* (Annelida: Clitellata: Propappidae) from Japan. *Species Diversity*, **11**: 359–365.
- 東洋航空事業株式会社 (編), 1981. 第 2 回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書 海域生物調査 (全国版). 環境庁, 東京.
- 土屋 豊・福田富男, 1983. 牛窓・番田・高島保護水面における環境および生物調査. *昭和 57 年度岡山県水産試験場事業報告書*, (1982): 118–140.
- 津田松苗・伊勢久右衛門, 1968. 児島湖の底生動物. *奈良陸水生物学報*, (1): 51–53.
- 著者不詳, 1904. 釣餌料調査. In 岡山県水産試験場 (編), *明治三十五年度岡山県水産試験場業務報告*, 68–71. 岡山県水産試験場, [玉野].

- 著者不詳, 1906. 釣餌料調査. In 岡山県水産試験場 (編), 明治三十六年度岡山県水産試験場業務報告, 67-74. 岡山県水産試験場, [玉野].
- 著者不詳, 1907. 東京動物学会例会記事. 動物学雑誌, 19: 112.
- 著者不詳, 1928. 餌虫蓄養運搬試験. In 岡山水産試験場 (編), 大正十五年・昭和元年度岡山県水産試験場業務報告, 48-52. 岡山県水産試験場, [浅口].
- 著者不詳, 1975. 岡山大学玉野臨海実験所. In 全国臨海臨湖実験所長会議 (編), 臨海・臨湖実験所周辺の生物相および主要実験生物に関する研究 (昭和49年度科学研究費総合研究B研究成果), 59-63. 全国臨海臨湖実験所長会議, 福岡.
- 内田紘臣, 2006. Polychaetologica (40) 各科の属の検索と種の説明 (25) チロリ科 No. 5. マリンバビリオン, 35: 14-15.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五嶋聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田 宏, 1996. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japan Science Report, 3: 1-182.
- WoRMS Editorial Board, 2019. World Register of Marine Species. <http://www.marinespecies.org> (2019年2月21日閲覧)
- 山野井英夫・難波洋平・小宮山秀樹・尾田 正・藤澤邦康, 2005. 軟泥干潟の底生生物相に及ぼすカキ殻粉末散布の影響. 岡山県水産試験場報告, (20): 22-25.
- 山野井英夫・難波洋平・小宮山秀樹・植木範行・尾田 正・藤澤邦康, 2005. 軟泥域潮下帯の底生生物相に及ぼす粗粉碎カキ殻散布の影響. 岡山県水産試験場報告, (20): 26-28.
- 吉郷英範, 2014. 庄原市立比和自然科学博物館所蔵のヒル綱 (環形動物門) の標本とその生態記録. 比婆科学, (248): 31-44.
- 吉岡 勉, 2001. 大槌島・羽佐間島の海岸動物. しぜんぐらしき, (39): 18.
- 湯浅卓雄, 1996. 岡山県自然保護センターの水生動物 [魚類, 底生動物]. 岡山県自然保護センター研究報告別巻, (1): 75-82.